



# 何がカギを握るのか

— 北朝鮮 ミサイル発射の裏事情 —

金融アナリスト  
永山卓矢

## 【ミサイル発射を見送った?】

北朝鮮は日本時間の11月29日未明に2カ月半ぶりにミサイルを発射。今回、発射された大陸間弾道ミサイル(ICBM)の「火星15型」は多弾頭化が模索されており、しかも2基のエンジンが搭載されている可能性が指摘されている。

実際、以前のものと比べて飛行距離が伸びており、53分間も飛行し、ロケット軌道により4,475kmと過去最高の高度まで打ち上げられている。正常な軌道で撃ち上がれば、米国の首都ワシントンDCにも到達するとされている。さすがにラムズフェルド元米国防長官が深く関与している複数のスイスの軍需企業が技術を請け負い、また教授しているだけに、最近の北朝鮮のミサイルや核開発技術の進歩には目を見張るものがある。

今回、どうして北朝鮮がミサイル発射に動いたのかを考える上で、その前にどうしてそれまでは2カ月半も発射ていなかつたのかというと、次の事が考えられる。

一つは10月22日に日本で衆院総選挙の実施を控えて、米国が安倍政権を援護した事が指摘できる。北朝鮮で主導権を握っている朝鮮人民軍は親イスラエル右派的な共和党系新保守主義(ネオコン)派に操られているが、安倍首相も米国のこうした勢力に支援されている。ところが、今回の総選挙では安倍首相が解散総選挙に打って出るにあたり、野党の間ではどうしてこうした非常事態の最中に総選挙を行うのかと疑問を投げかけて攻撃していくので、北朝鮮がミサイル発射を見合させて当然である。

二つ目が、トランプ大統領が日本、韓国を経て11月8~10日に中国を訪問し、9日に習近平国家主席との間で米中首脳会談が開催される予定になっていた事だ。

米権力者層は中国に通商、資本両取引での自由化や不良債権処理の推進を強要するにあたり、北朝鮮問題を利用している。中国としては北朝鮮が核兵器を保有するのは困るが、同国の現体制を崩壊させる訳にいかない事情があるのを見越してのものだ。

また、実際に北朝鮮を攻撃するにあたり中国が人民解放軍による援軍を出させないためにも、北朝鮮が受け入れる筈がないのを承知の上で、まず中国側にミサイル発射や核開発の凍結に向けて具体的に行動させる必要がある。

実際、トランプ大統領の要請により中国側は習主席の特使として宋濤・党中央对外連絡部長を北朝鮮に派遣したが、それが失敗したのを受けて米国側は同国を「テロ支援国家」に再指定した。それにより北朝鮮側もミサイルを発射しやすい雰囲気になったが、そうした一連の動きを見る限り、以前から米国側が描いたシナリオ通りに動いていた可能性が高いと言わざるを得ない。

## 【会計検査院への制裁が目的か?】

そして三つ目が、トランプ大統領が中国を訪問する前に日本や韓国を訪れた事で、両国が米国から大量の兵器を購入する事を表明した事だ。北朝鮮の核開発の究極の目的が中国への威圧と並んで、これら両国、それも特に日本に核保有国の仲間入りをさせるためだとしても、当面の目標は兵器を買わせる事にあったため、それが達成された事でミサイル発射が見合されて当然である。

こうした事情を考えると、この時期に北朝鮮が久しぶりに発射に踏み切ったのは何故なのかもそれなりに見えてくる。

日本では足元の国会で、当然の事ながら安倍首相が森友・加計問題で野党から攻撃を受けている。特に今回、野党を勢いづかせる事になったのが、11月22日に会計検査院が森友学園に対する国有地の売却を巡り、約8億円もの値引きの根拠となつたゴミ撤去費用について、「十分な根拠が確認できない」とする報告書を国会に提出した事だ。

もっとも、その程度であれば、今回は安倍首相は以前に比べてそれほど苦境に陥っている訳ではない。

ただその後、会計検査院は日本が米国から購入する多くの兵器についても、その金額の設定が不当に高すぎるとして引き下げを求め、また契約通りに日本製の部品を装着したもの引き渡すように求めるべきだとする非公式の意見書を出していったという。

こうした会計検査院の「反安倍、反米」的な行動に懸念を示し、北朝鮮にミサイル発射に踏み切らせた大きな要因である事が考えられるだろう。

## 【ロシアの政情が影響を及ぼす】

ただ、今回のミサイル発射で興味深いのは、ロシアのモルグロフ外務次官が韓国を訪れて、「同時凍結のロードマップ」を推進しようとしていた際に引き起こされた事だ。このロシア主導によるロードマップというのは、北朝鮮がミサイル発射や核開発を凍結する代わりに米国や韓国も大規模な軍事演習を停止し、その間に何らかの解決策を見いだそうというものだ。

今回の北朝鮮のミサイル発射は、そうしたロシア政府の努力を水泡に帰させるものだが、注目されるのは、北朝鮮国内では本当は米国の親イスラエル的な勢力と裏側で繋がっているロシア軍が駐留しており、朝鮮人民軍の動きもその影響下にある事だ。

すなわち、今回のミサイル発射はロシア政府が外交的解決に向けて仲介役を買って出ている中で、意図的に自らその工作活動が頓挫するよう動いた事になる訳だ。

おそらく、その背景にはロシア国内の政治情勢が関係していると思われる。大雑把に言えば、ロシアでは米トランプ政権と裏側で繋がっており、アジア極東に根付いている右翼民族主義的な宗教勢力とも関係しているプーチン大統領を中心とする勢力と、欧洲系の勢力と関係しており親中国的なメドベージエフ首相を中心とする勢力に二分されている。言うまでもなくロシアでは大統領の方が権限が強いが、行政執行権は内閣を統轄している首相が握っている。プーチン大統領はメドベージエフ首相の勢力を抑え込むにあたり、自らの出身である旧ソ連の国家保安委員会(KGB)の後身であるロシア連邦保安庁(FSB)出身である「シリヴィキ」と呼ばれる勢力を優遇して次々に高官に引き上げていった。その代表的な人物がロスネフチのセチン社長(元副首相)であり、プーチン大統領は表向きには実務的な執行権限をメドベージエフ首相の勢力に委ねながら、実際には裏側でこの人物を後押ししてその権限の抑制に動いていた。

例えば、昨年12月15~16日にプーチン大統領が来日して安倍首相との間で日中首脳会談が行われたが、その最大の課題は将来的に日本の財界が大挙してロシアに進出する事にあった。

ところが、ロシア側で経済協力の窓口になっていたのがメドベージエフ首相の側近のウリュカエフ経済発展相(当時)だったため、日本政府側やプーチン大統領側には都合が悪かった。

そこでプーチン大統領の訪日に先立つ11月15日に、FSBがウリュカエフ経済発展相を収賄容疑で逮捕したが、その容疑の内容がセチン社長の「お膝元」であるロスネフチをはじめとする石油取引に絡んだものであつただけに、その謀略めいた実態が薄々理解できると言うものだ。

ただし、最近ではプーチン大統領は「持ち上げ過ぎた」事からセチン社長があまりに強大な勢力に発展した事で警戒を強めているようであり、ロスネフチを巡る汚職事件を利用して牽制している。

ただいざれにせよ、ロシアの政情では大雑把にいってこうした対立の図式があり、外交面での実務を担っている外務官僚であるモルグロフ外務次官は言うまでもなくメドベージエフ首相の勢力下にある。プーチン大統領が親日の姿勢を示しているのに対し、ラブロフ外相とともにモルグロフ次官が「日本は第二次世界大戦の結果を認めて受け入れるべきだ」と再三にわたり発言しているのもこのためだ。

**永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」**

詳しくはこちらへ→<http://17894176.blog.fc2.com/>

# ピ・テクニカル

## 乱高下は第4波の証

日経平均株価は乱高下模様の展開。11月9日23,382で高値を付けた後の最安値は16日の21,972。過去2週間のコメント「ここで調整を終えたならかなり強い相場である。ただ、前回述べたように“トライアングルかレクタンブルなら、調整期間はやや長引くかもしれない”」。この乱高下はトライアングル形成にも見えるが、反発や振り落としがきついとレクタンブルも想定できる。23,400を上回って引けて来れば調整終了のシグナル。第5波動入りを確認するだろう。

この波動理論では11月27日号「第5波への上昇に備える」でも述べた。即ち「波動理論から考えれば、9月8日からの上昇波が何らかの第3波であるなら、現在は第4波に相当する。この波がトライアングルかレクタンブルなら、調整期間はやや長引くかもしれない。前者なら安値は既に11月16日で付けている。ただ高値更新には時間がかかる恐れがある。一方、a-b-cの3波調整ならもう一度下落して安値を更新、通常のリトレースメント38～62%押しレベルの21,310±490を狙う

## 今週のいち押し ヘッドアンドショルダー

絶賛水星逆行中の先週8日、11月の米雇用統計が発表され、非農業雇用者数（NFP）は市場予想（中心値で前月比20万人増）を上回る前月比22.8万人増。米国政府の閉鎖問題も回避され、税制改革も前進。これに加えて雇用も良好という結果を受け、米国株式市場は上伸。米ドルも買われてドル指数は上昇した。逆に利上げはほぼ確実と見た市場参加者は金やユーロを売る。金は中心限月の2月限終値ベースで前週比33.9ドル安これは1週間で2.7%下げた計算になる。ただ、ユーロ／ドルの1週間の下げ幅は引け値ベースで1%程度。直近の高値である11月27日の1.1960から先週末8日の安値1.1730までの下げ幅も2%に満たない。

市場は楽観論に満ちている。しかし、時あたかもダマシ横行せし水星逆行期間。まして今週は中間点。迂闊には乗れない。今週も嫁をいびる姑のような眼差しで相場を見る必要がある。



レイモンド・A・メリマン著 秋山日播香・投資日報編集部 訳  
発行：投資日報出版 定価：8,100円（税込・送料別）

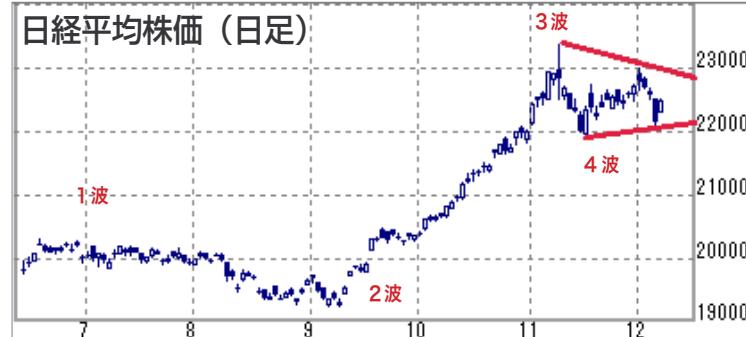
お問い合わせ  
お申し込みは：**投資日報出版(株)** まで

〒103-0013 東京都中央区人形町3-12GRANDE人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444

可能性がある。しかしこの調整が終了すれば第5波の上昇が到来する。その時は28,000円以上の目標が設定されよう。

現在、第4波動の形はまだ不明だが、次の5波の上昇が終了した後、チャートで見る通りまだ（3）の波を終えたに過ぎない。その後（4）の調整を経て再び反騰、（5）の目標は3万以上になってくるだろう。

目前はトライアングルの調整が続くと想定しているので、その下限レベル22,300以下があればゆっくり買い拾っておくことだ。



当欄では先週、ドル／スイスフランの日足を並列に掲載し、両銘柄の連動性を解説した上でこう予測した“ユーロは11月安値を頭に再度小さな逆三尊を形成するのではないか”。これが具現化しつつある。スイスフラン以外にも同じような連動性を持つチャートが他にもあった。ドル指数である。

9月を頭にユーロ／ドルが三尊天井の形状になり、ネックラインを割り込んだ時、逆にドル指数は逆三尊の形状からネックライン超えを果たしていた。しかし、両相場とも11月に入って更新に失敗。相場は再反転する。現在、11月の節目を頭に、10月の節目を左肩、現在の節目を右肩にユーロ／ドルは逆三尊、ドル指数は三尊天井の形状になっている。

注目すべきは、9月のドル指数の逆三尊ネックライン、ユーロ／ドルの三尊ネックラインが右肩のサポート＆レジスタンスになっている点。11月を頭とするヘッドアンドショルダーが完成するなら、目前このサポート＆レジスタンスは突破されずに反転するだろう。逆に突破されるなら、しばらくドル指数は上昇基調、ユーロは下落基調が続くものと予測する。



### 今週の相場風林語録

#### 怒りの心を断つべし、そしりの言葉出すべからず【2】

見えていて日常、不平不満の多い人は概して相場で成功していない。また人を誇ったり、呪ったりする人は自らの状況を悪くしている。このことは関心をもって見ていると、たいがい当てはまるから、相場に限らず、恐ろしいことだと思う。

## 今週の九星★波動

南雲 紫蘭

じり高と安定

北朝鮮は遂に ICBMと思われるロケットを発射しました。ワシントンDCを直撃できるものです。米国はどう対応するのでしょうか。爆撃機と比較した ICBM の優位性は 30 分で目標に到達できるという事です。同時に ICBM はいったん発射されると「取り返しがつかない」武器です。北朝鮮は勿論、現時点では米国もロシアもいったん発射された ICBM を止める手立てがありません。さらに破滅に至りかねない複数回の失敗を米露双方が過去に犯しています。1985 年には 200 基の ICBM をソ連が米国に向け発射した事を示す核警告が米戦略軍のコンピューター上に出現しました。同じ誤作動が 2 週間後にも繰り返された挙句、ようやく問題が回路基板の欠陥にある事が判明したといいます。

1985 年には、当時のロシア大統領ボリス・エリツィンが核ミサイルの発射ボタンに手をかけました。米国製とみられるミ

相場指南道場

## トレーダーあそなろ物語 (424)

中原 駿

ワン・メン・メンとの、そのあとのこととはあまり良く覚えていない。

いや、もちろん上野としては、理性を失ってはいけないところはわかつっていた。

上野がいろいろと聞いた事にも、ワン・メン・メンは心よく答えてくれた。

ワン・メン・メンはその生い立ちからしても複雑な人物であった。彼は大家族の 7 番目であったのだが、10 人いた兄弟姉妹のうち、7 人は死んでいた。

しかも、その中にあって、兄弟姉妹は中国の中で共産党とそれ以外に分かれたのだった。

第六感



## 歪な三尊右肩狙い

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

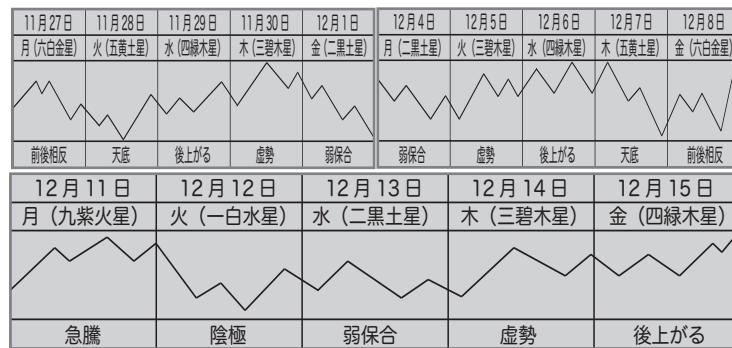
## サブサイクルの起点は 11 月 27 日か

ドル円相場は先週述べた如く、歪な三尊パターンを形成している。現在は右肩形成中。しかし 114 円以上で引けてくると、そうはならない。ダブルトップ、さらに高値更新では 5 ポイントリバーサルの反転パターンが視野に入る。いずれも、弱気型のパターンになるが、以前から述べてきた如く 115 円の 3 ポイント上値抵抗を引け値で上放れするまでは、完全な強気型にはならない。現段階では雇用統計、FOMC を控えており、上値の目途は 113.80 ~ 114.20 と想定している。雇用統計後 114 円を超えて引けて来れば、強気を意識せざるを得ないだろう。このケースでは次の目標は 3 ポイント上値抵抗。今週末はこのラインが 114 円 80 に切り上がっている。中長期投資家はこのラインを上抜けてから買いを仕掛けても遅くはないと考える。先週次の通り述べた「ただ 1 年サイクルは 9 月 3 日で付いていると判断している。したがって、この相場は中期では強気。そのため一般の投資家は 3 ポイント上値抵抗をブレイクしたところから買いを狙うとした。このケースでは 118 円近くまで上昇する可能性があるからだ」。

サブサイクルは 11 月 27 日ボトムの可能性を高めつつある。その場合先週、「3 ~ 5 週の上昇がスタートしている。この目標値は 114 円以上となる」と述べたが、今週はこれを見極めたい。このケースでは今週はまだ 2 週目であり、9 月 8 日安

サイルがノルウェーから発射されたことを探知したからです。だが、ロシア当局者は、それが核ミサイルではないとギリギリで判断しました。このような理性が北朝鮮にはあるのでしょうか。いつでも攻撃されるという焦燥感は簡単に全面戦争への道を示しているように思えてなりません。

九星波動は月盤が《七赤金星》に入っています。じり高を示唆するこの星の下では、年末は本来安定したものとなります。



共産党にはなぜかエリートだった長男が加入し、それ以外の多くは国民党に、それ以外にも日本に協力した人間、非政治的人間もいた。非常に複雑な厳しい 1930 年代から 40 年代の中国にあって、家族は香港に逃れ、そしてシンガポールにも流れてきたのだが、客家とはいえその当時のシンガポールは決して中国人にとって住みやすいところではなかった。

また大日本帝国がシンガポール在住の中国人には特に厳しく当たったこともあり、シンガポールでは弾圧に近い状況であったようだ。そうしたことでも淡淡と述べる一方で、「今の日本人を恨んではいない」「日本人は個人としてはとても良かった」と述べてくれた。上野はわずかに安心したが、やはり東南アジアの反日感情はそうそう甘いものではない、と痛感せざるを得なかった。そんな気持ちが老酒を飲む速度を上げてしまったのかも知れない。

値を中心とした左右対称形も垣間見えてくる。

先週のストラテジーは次の通り。「短期投資家は今週、113 円 30 近辺で売りを狙い、ストップを浅くする」と述べたが、114 円以上の引け値はストップアウト。

一方、下げ過程では 112 円台は手仕舞いしたい。またその際、積極的な投資家は押し目買いに切り替える用意をする。ただ FOMC が終わるまでは積極的なポジションメイクは避けたい。したがって明確なストラテジーは来週決める予定。



# サイクルだけ話します。

—メリマン・サイクル理論 備忘録—

## 【第69回】NY白金のサイクルについて(6)

先週のNY白金相場は939.2ドルの寄り付きから883.7ドルの引け値まで前週比で56.9ドル下がりました。これで長期サイクルの見方に少し変化が出て来ています。現行相場が16年サイクルで構成されているという点に変更はありません。一つ前の16年サイクルの起点が1998年10月30日の332ドルと、翌年7月28日の341ドルでダブルボトムであった点も変わりません。恐らく、2016年1月21日の安値でボトムをつけたと思います。ただ、現在2016年2月以来の安値水準に到達しており、目先の安値で16年1月安値とダブルボトムになる可能性が出てきました。

16年サイクルは、2つの8年サイクルで2分割され、第1～8年サイクルボトムは2008年10月21日の752.1ドルでした。

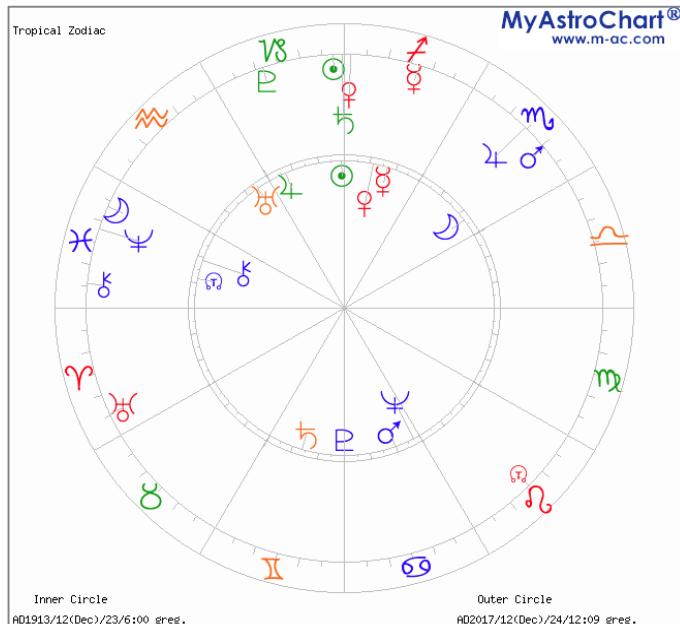
8年サイクルは2つの4年サイクルで2分割され、第1～4年サイクルは2013年6月28日の1,295.40ドルでボトムをつけ、これまでここから31カ月後の2016年1月21日の811.4ドルで第2～4年サイクルが短縮ボトムをつけたと見ていたのですが先週の下げで目先はダブルボトムを目指す可能性があります。

### メリマン通信 —金融アストロロジーへの誘い—

#### 火星の蠍座入居に注意

これらの記述は、いつもより増して賭博性が高い。現在水星逆行中で今週12～13日はその中間点であるという点にも配慮してお読み戴きたい。話題は火星の蠍座入居である。

先週12月9日、火星が蠍座に入居した。金星と火星のサインチェンジは相場の反転ポイントとして非常に重要だが、火星の蠍座入居は特に反転ポイントして重要度が高い。前回は2016年4～6月の火星逆行に伴い、16年1月3日～3月6日と同年5月27日～8月3日の2回発生。この天体イベントに最もハマったのがNY金。両期間中、相場は急上昇している。金と連動性高いユーロ／ドルは前半の入居期間で金と共に急上昇。同じく前半ではNY原油、NYダウ、日経平均株価が急落している。これは同時期（2016年1月5～26日）に水星逆行が重なった事も影響しているのではないかと思われる。



通常であれば、4年（ $48 \pm 8$ カ月）サイクルは3つの16カ月サイクルに分割されるのですが、13年6月安値から16年1月までの31カ月は、18カ月と13カ月で2分割。更にそこから11カ月目の16年12月に次の節目が到来します。

通常の日柄であれば4年サイクルは2018年2月までにボトムをつけます。また、16年サイクルの起点から計算すると2018年3月までにボトムが出現する公算になります。従ってこの時間帯までに16年1月安値を試すか下回った後に反発した場合は、16年サイクルボトムかも知れません。ただ、その確認には時間がかかります。早く半年、遅く1年でしょうか。



従って、逆行中間点と火星蠍座入居の時間帯が重なる今週は相場の大反転が起こりやすい。先週は金もユーロも大きく下げ、株式は共に反発しているが、存外逆張りチャンスかもしれない。

今月は米国経済にとってジオコスミック的に一大転換点になる星回り。これは昨年の『フォーキャスト2017』や今年の『フォーキャスト2018』の中でも語られているが12月21～22日の冬至（太陽の山羊座サインチェンジ）付近（12月20日）で、土星も山羊座にサインチェンジする。

実際にクリスマスイブの天体位相を掲載したのでご覧戴きたい。内円にはF R Bが設立された時の天体位相が配置されている。ここから見て取れるのは、太陽、土星、そしてもうしばらくすると金星が始原図の太陽と冥王星とコンジャンクション（0度）、オポジション（180度）の関係になるという点。これは金融政策の変更を示唆する。水星順行もこの付近だ（22～23日）。

折しも1月上旬までは水星逆行シャドウ期。今週反転した各種相場は途中加速してシャドウ抜けまで進むと予想する。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

### 今週のアストロロジー info

- 12月11日(月) 小転換日
- 12月12日(火) 修正の動き
- 12月13日(水) 軽い押し目底か戻り高値
- 12月14日(木) 総強気、総弱気は天・底近し
- 12月15日(金) トレンドに乗る
- 12月16日(土) 利乗せの極意は引き際にあり
- 12月17日(日) 悪材料や好材料は誇張されやすい

### フォーキャストのその先へ

#### 【2018年新春勉強会】 —2018年、如何に儲けるか—

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。2018年最初の勉強会では、前年の分析に加えて、2018年の重要な相場サイクル、天体位相等、複合的な解説を実施！恒例の新年会も行います。

講師	日時	会場
<第一部> 何よりも早い『フォーキャスト2018』ポイント解説	1月27日(土)13:00～19:00	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町セタービル2階
株式会社投資日報社 林 知久	<一般>	<NMA会員> 14,040円(税込) 10,800円(税込)
<第二部> 第一四半期、儲けの機会を探る	※お席に限りございますのでお早めにご予約ください。	※お席に限りございますのでお早めにご予約ください。 ※お席に限りございますのでお早めにご予約ください。
株式会社投資日報社 代表取締役 鎌木 高明	※お席に限りございますのでお早めにご予約ください。	※お席に限りございますのでお早めにご予約ください。

■ 詳細・お申し込みは[こちらから](#)

(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278  
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

<http://www.toushinippou.co.jp/>  
＜セミナー内【2018年新春勉強会】よりお申し込みください＞